

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年6月11日

【四半期会計期間】 第45期第2四半期(自 2021年2月1日 至 2021年4月30日)

【会社名】 ギグワークス株式会社

【英訳名】 GiG Works Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村 田 峰 人

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門二丁目10番1号 虎ノ門ツインビルディング東棟10階

【電話番号】 03(6832)3260

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員CFO 松 沢 隆 平

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門二丁目10番1号 虎ノ門ツインビルディング東棟10階

【電話番号】 03(6832)3260

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員CFO 松 沢 隆 平

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第44期 第2四半期 連結累計期間	第45期 第2四半期 連結累計期間	第44期
会計期間		自 2019年11月1日 至 2020年4月30日	自 2020年11月1日 至 2021年4月30日	自 2019年11月1日 至 2020年10月31日
売上高	(千円)	9,183,577	11,758,064	19,770,958
経常利益	(千円)	447,109	859,155	1,004,663
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	269,959	413,774	657,089
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	283,192	427,535	682,029
純資産額	(千円)	3,512,888	4,243,085	3,926,041
総資産額	(千円)	8,343,908	10,173,179	10,370,558
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	13.45	20.46	32.65
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	13.09	19.94	31.98
自己資本比率	(%)	41.2	40.8	37.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	798,172	1,105,518	940,714
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	78,751	633,544	390,751
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	72,126	173,933	728,826
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,575,675	4,360,957	4,062,917

回次		第44期 第2四半期 連結会計期間	第45期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年2月1日 至 2020年4月30日	自 2021年2月1日 至 2021年4月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	10.21	6.03

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 2021年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。第44期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動の停滞が続いており、3度目の緊急事態宣言が発出されるなど、依然として経済の見通しは不透明な状況にあると認識しております。

当社グループは、『日本一のギグ・エコノミーのプラットフォーマーになり、労働市場に革命を起こす』をビジョンに掲げ、単なる仕事の仲介だけに留まらない「ギグ・エコノミーのプラットフォーマー」として更なる飛躍を目指しております。当社グループでは正社員、契約社員、時短勤務はもちろんのこと、ショートタイムでの副業（複業）、フリーランスやテレワークなど多種多様な働き方を選択できる環境があり、働く方々の生活に合った多様なワークスタイルを提供しております。また、2020年10月よりギグワーカー（働き手）とクライアント企業（発注者）の間で、仕事の受発注を直接成立可能とする新プラットフォームサービス「GiGWorks Basic」の提供を開始しております。労働の多様性、スキルシェアに関してメディアで取り上げられる機会が増えている昨今、当社グループの社会的な重要性も日々増していると認識しております。

このような環境の中、当社グループは、ITに精通した登録エージェントによるオンデマンドエコノミー事業と子会社のアセットデザインを中心に展開しているシェアリングエコノミー事業の業容拡大とサービスの品質向上、強化に取り組んでまいりました。

また、当第2四半期連結累計期間において、自粛環境下における正社員及び契約社員に対する特別慰労金の支払いや感染症対策に伴う衛生用品緊急配布等、感染症関連費用として1億10百万円を特別損失に計上しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は117億58百万円（前年同期比28.0%増）、営業利益は8億40百万円（前年同期比88.9%増）、経常利益は8億59百万円（前年同期比92.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億13百万円（前年同期比53.3%増）となりました。

（注）ギグ・エコノミーとは、インターネット等を通じて単発・短期の仕事を受注する働き方やそれによって成立する経済活動のことを言います。近年、グローバルに使われるようになった用語で、ネット仲介の配車サービスや宅配サービスなどが有名です。一般的にギグ・エコノミーは、個人の働き方が多様化した一つの形態であり、日本国内においても、働き方改革、副業・兼業の容認拡大の中で今後は仕事を仲介・サポートする当社のようなプラットフォーム提供企業の役割がより重要になると考えております。

セグメントごとの経営状況は、以下のとおりであります。

（オンデマンドエコノミー事業）

オンデマンドエコノミー事業は、ライフスタイルや人生のステージに合わせて「必要な時に必要なだけ働ける」をテーマとしたプラットフォームを提供することで、労働市場に新しい価値を生み出しております。創業以来、多様な働き方を提供し続けている当社グループには、「雇用関係だけによらない働き方」・「多様かつ柔軟な働き方（副業・在宅等）」を希望する個人事業主、フリーランスが数多く登録しており、当第2四半期連結累計期間には6,428人のユニークワーカーが日本全国で活躍しております。このような登録スタッフの活躍により幅広いニーズに日本全国で応えられる体制を構築しております。具体的には、企業と個人を繋げるオンデマンドサービスと、ITエンジニアによるシステム開発を主体としたプロフェッショナルサービスの提供を行っております。

オンデマンドサービスにおいては、政府が推進する働き方改革や感染症の拡大に伴うテレワークへの取り組みなどを背景に、ヘルプデスクやサービスデスク関連のニーズは、引き続き高い水準を維持しております。昨年受注した大型案件が予定通り今春にて完了し、本年度上期の業績に寄与しております。下期においては、現状複数の新規案件の引き合いがあり、受注獲得を目指しております。自社で運営するコンタクトセンターは、ニーズの高まりを受けて「東京・大阪・福岡」を中心に増席を進め、6拠点を活用したBCP（事業継続計画）の体制が整い、通販・テクニカルサポート・IoT関連のサポートセンター等の受注拡大が進んでおり順調に稼働しております。また、各学校に1

人1台の学習者用パソコンと高速ネットワーク環境などを整備する「GIGA（ギガ）スクール構想」に関連する案件は、半導体不足によるPC調達の遅れはあったものの、作業効率化の効果もありパソコンのキッティング業務や設定設置業務は堅調に推移いたしました。一部地域でサービスが開始された次世代通信規格5Gは、インフラ整備の需要が高まっており、今後の伸長も期待できることから、本格稼働に向けた工事班体制の強化を推進しております。

ITエンジニアによるプロフェッショナルサービスにおいては、自社開発商品のCRMシステム「デコールCRM3」の販売は、感染症再拡大の影響で一部開発の延期が発生していることもあり軟調に推移いたしました。受託開発案件は、感染症再拡大の影響は一旦底入れし、回復基調に向かっております。案件延期による非稼働エンジニアは、徐々に減少しており、引き続き教育研修を行い景気回復時の再受注を見据えつつ、自社新製品の開発要員として機動的に再配分する予定であります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるオンデマンドエコノミー事業の売上高は104億33百万円（前年同期比33.0%増）、セグメント利益は14億97百万円（前年同期比76.8%増）となりました。

（シェアリングエコノミー事業）

シェアリングエコノミー事業は、主に起業家や個人事業主支援を目的にスペースシェアを主体としたシェアリングサービスの提供を行っております。アセットデザインが運営するシェアオフィスは、首都圏を中心に65拠点（2021年4月末）で展開し、利用提携先の施設を含めると国内最大級となる660拠点以上のオフィスネットワークとなり、「必要な時に、必要な分だけ使う（借りる）」をテーマに、利用者に対して低コストで高品質な働く場を提供してまいりました。

また、企業においては、働き方改革やコロナ禍での急速なりもトワークの導入を背景にオフィス分散化、オフィス削減、通勤時間の短縮や生産性向上等、一変した環境に対応する働き方の導入が増えたことに伴い、サテライトオフィスの需要がより一層拡大しております。このような変化に 대응べく当社子会社であるアセットデザインにおいて、2020年12月より多拠点サテライト「スマートオフィス」のサービスを開始いたしました。当第2四半期連結累計期間においては、この新サービスの直営拠点増加による費用先行の影響から、セグメント損益は引き続き赤字となっておりますが、シェアオフィスの利用企業数は5,000社、ドロップイン会員についても1,100社を超え、既存オフィスの稼働率は87%と高い水準で推移しております。今後も既存オフィスの高い稼働率を維持、また多様化する働き方のニーズを取り込んだ業容拡大を積極的に目指してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるシェアリングエコノミー事業の売上高は13億77百万円（前年同期比1.4%増）、セグメント損失は88百万円（前第2四半期連結累計期間は97百万円の利益）となりました。

（注）ドロップイン会員とは、一時利用のための会員登録を言います。今後の定期利用拡大が見込まれる重要指標となります。

（2）財政状態の分析

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて8億2百万円減少（10.4%減）し、68億92百万円となりました。これは、主として現金及び預金が2億98百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が10億26百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて6億5百万円増加（22.6%増）し、32億80百万円となりました。これは、主として建物が2億35百万円増加したこと等によります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて1億97百万円減少（1.9%減）し、101億73百万円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて3億46百万円減少（7.4%減）し、43億28百万円となりました。これは、主として短期借入金が1億50百万円増加した一方で、買掛金が3億88百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1億68百万円減少（9.5%減）し、16億2百万円となりました。これは、主として長期借入金が1億92百万円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて5億14百万円減少（8.0%減）し、59億30百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3億17百万円増加(8.1%増)し、42億43百万円となりました。これは、主として親会社株主に帰属する四半期純利益を4億13百万円計上した一方で、配当金の支払により利益剰余金が1億48百万円減少したこと等によります。

自己資本比率は、前連結会計年度末に比べて3.8ポイント増加し、40.8%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の四半期末残高は43億60百万円となり、前連結会計年度末残高40億62百万円と比べて2億98百万円の増加となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は、11億5百万円(前第2四半期連結累計期間は7億98百万円の収入)となりました。これは、主として売上債権の減少額10億27百万円、税金等調整前四半期純利益7億48百万円、減価償却費1億46百万円、法人税等の還付額1億24百万円を計上した一方で、仕入債務の減少額3億91百万円、法人税等の支払額2億98百万円、未払金の減少額59百万円を計上したこと等によります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果支出した資金は、6億33百万円(前第2四半期連結累計期間は78百万円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出3億68百万円、差入保証金の差入による支出1億41百万円、無形固定資産の取得による支出1億25百万円を計上したこと等によります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果支出した資金は、1億73百万円(前第2四半期連結累計期間は72百万円の収入)となりました。これは、主として短期借入金の純増額を1億50百万円、長期借入れによる収入1億円を計上した一方で、長期借入金の返済による支出2億80百万円、配当金の支払額1億35百万円を計上したこと等によります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	85,200,000
計	85,200,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年6月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,870,510	21,870,510	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株 であります。
計	21,870,510	21,870,510		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2021年6月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年2月1日～ 2021年3月31日 (注)1	4,075	7,287,920	2,135	1,048,921	2,135	569,050
2021年4月1日 (注)2	14,575,840	21,863,760		1,048,921		569,050
2021年4月1日～ 2021年4月30日 (注)1	6,750	21,870,510	473	1,049,395	473	569,523

(注) 1. 新株予約権の行使によるものであります。

2. 2021年2月25日開催の取締役会決議により、2021年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割いたしました。これにより発行済株式総数が14,575,840株増加しております。

(5) 【大株主の状況】

2021年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
村田ホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿 6 - 5 - 1	2,343,915	11.57
S P R I N G I N V E S T M E N T 株式会社	東京都新宿区西新宿 6 - 5 - 1	1,881,015	9.28
S P R I N G 株式会社	東京都新宿区西新宿 6 - 5 - 1	1,091,655	5.39
株式会社大塚商会	東京都千代田区飯田橋 2 - 18 - 4	1,080,000	5.33
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES (常任代理人 香港上海銀行、東京支店)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋 3 - 1 1 - 1)	840,000	4.15
株式会社日本カストディ銀行	東京都中央区晴海 1 - 8 - 1 2	750,900	3.71
コロンプス(従業員持株会)	東京都港区虎ノ門 2 - 10 - 1	532,400	2.63
関戸 明夫	東京都杉並区	487,485	2.41
株式会社 S B I 証券	東京都港区六本木 1 - 6 - 1	409,767	2.02
若林 武	東京都港区	363,240	1.79
計		9,780,377	48.28

(注) 上記のほか、自己株式が1,608,495株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,608,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,252,100	202,521	
単元未満株式	普通株式 10,010		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	21,870,510		
総株主の議決権		202,521	

【自己株式等】

2021年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ギグワークス株式会社	東京都港区虎ノ門2-10-1	1,608,400		1,608,400	7.4
計		1,608,400		1,608,400	7.4

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年2月1日から2021年4月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年11月1日から2021年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、UHY東京監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,062,917	4,360,957
受取手形及び売掛金	3,247,229	2,221,228
仕掛品	86,281	66,632
その他	341,964	271,355
貸倒引当金	42,968	27,437
流動資産合計	7,695,424	6,892,738
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	789,505	1,024,765
その他(純額)	296,764	414,896
有形固定資産合計	1,086,270	1,439,661
無形固定資産		
のれん	223,026	196,314
その他	337,219	408,976
無形固定資産合計	560,246	605,290
投資その他の資産		
投資有価証券	133,211	153,451
長期貸付金	174,115	174,055
その他	960,068	1,145,160
貸倒引当金	238,778	237,178
投資その他の資産合計	1,028,617	1,235,488
固定資産合計	2,675,133	3,280,441
資産合計	10,370,558	10,173,179
負債の部		
流動負債		
買掛金	876,523	487,572
短期借入金	760,000	910,000
1年内返済予定の長期借入金	592,404	604,180
未払金	1,089,493	1,105,760
未払法人税等	305,657	380,175
賞与引当金	-	353,380
その他	1,050,021	487,000
流動負債合計	4,674,099	4,328,069
固定負債		
長期借入金	1,275,340	1,083,072
退職給付に係る負債	382,938	405,807
その他	112,139	113,145
固定負債合計	1,770,417	1,602,024
負債合計	6,444,517	5,930,093

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,045,735	1,049,395
資本剰余金	638,699	667,127
利益剰余金	2,240,283	2,505,855
自己株式	140,609	138,110
株主資本合計	3,784,108	4,084,267
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54,813	68,586
その他の包括利益累計額合計	54,813	68,586
新株予約権	84,189	90,231
非支配株主持分	2,930	-
純資産合計	3,926,041	4,243,085
負債純資産合計	10,370,558	10,173,179

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年11月1日 至2021年4月30日)
売上高	9,183,577	11,758,064
売上原価	6,910,075	8,858,095
売上総利益	2,273,501	2,899,968
販売費及び一般管理費	1,828,804	2,059,959
営業利益	444,697	840,009
営業外収益		
受取利息	190	358
受取配当金	752	801
助成金収入	5,305	11,089
貸倒引当金戻入額	1,772	390
解約返戻金	974	-
受取賃貸料	1,506	2,550
受取保険金	-	5,865
その他	2,229	6,823
営業外収益合計	12,730	27,878
営業外費用		
支払利息	5,214	8,456
支払保証料	111	66
寄付金	4,483	-
その他	509	209
営業外費用合計	10,318	8,732
経常利益	447,109	859,155
特別利益		
保険解約返戻金	109,444	-
特別利益合計	109,444	-
特別損失		
減損損失	2,692	-
固定資産除却損	770	739
投資有価証券評価損	5,000	-
感染症関連費用	109,924	110,309
特別損失合計	118,388	111,048
税金等調整前四半期純利益	438,166	748,107
法人税、住民税及び事業税	168,203	372,085
法人税等調整額	14	37,741
法人税等合計	168,218	334,344
四半期純利益	269,948	413,762
非支配株主に帰属する四半期純損失()	11	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	269,959	413,774

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年11月1日 至2021年4月30日)
四半期純利益	269,948	413,762
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,244	13,773
その他の包括利益合計	13,244	13,773
四半期包括利益	283,192	427,535
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	283,203	427,547
非支配株主に係る四半期包括利益	11	11

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年11月1日 至2021年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	438,166	748,107
減価償却費	108,230	146,754
減損損失	2,692	-
のれん償却額	33,149	26,712
保険解約返戻金	110,419	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	796	17,131
受取利息及び受取配当金	942	1,159
支払利息	5,325	8,522
固定資産除却損	770	739
投資有価証券評価損益(は益)	5,000	-
売上債権の増減額(は増加)	210,226	1,027,080
たな卸資産の増減額(は増加)	30,180	9,276
仕入債務の増減額(は減少)	192,573	391,725
未払金の増減額(は減少)	125,605	59,513
前受金の増減額(は減少)	62,443	1,648
未払賞与の増減額(は減少)	51,160	380,807
賞与引当金の増減額(は減少)	17,268	353,380
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	26,221	22,869
その他	28,473	204,819
小計	811,436	1,286,637
利息及び配当金の受取額	794	1,032
利息の支払額	5,545	8,546
法人税等の還付額	142,056	124,894
法人税等の支払額	150,569	298,498
営業活動によるキャッシュ・フロー	798,172	1,105,518
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	273,650	368,124
無形固定資産の取得による支出	109,892	125,346
投資有価証券の取得による支出	300	300
短期貸付金の回収による収入	-	199
長期貸付金の回収による収入	259	60
差入保証金の差入による支出	41,512	141,165
差入保証金の回収による収入	77,777	1,131
保険積立金の解約による収入	268,565	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	78,751	633,544

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	50,000	150,000
長期借入れによる収入	300,000	100,000
長期借入金の返済による支出	171,670	280,492
社債の償還による支出	25,000	-
リース債務の返済による支出	9,567	9,683
新株予約権の行使による株式の発行による収入	14,238	4,627
配当金の支払額	85,874	135,383
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	2,925
その他	-	76
財務活動によるキャッシュ・フロー	72,126	173,933
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	791,547	298,040
現金及び現金同等物の期首残高	2,784,127	4,062,917
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,575,675	1 4,360,957

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)
給与手当	645,914千円	749,129千円
雑給	147,215千円	114,746千円
賞与引当金繰入額	5,043千円	228,310千円
役員賞与引当金繰入額	12,225千円	26,100千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)
現金及び預金勘定	3,575,675千円	4,360,957千円
現金及び現金同等物	3,575,675千円	4,360,957千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年12月25日 取締役会	普通株式	利益剰余金	93,481	14.00	2019年10月31日	2020年1月14日

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年12月25日 取締役会	普通株式	利益剰余金	148,201	22.00	2020年10月31日	2021年1月15日

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第 2 四半期連結累計期間(自 2019年11月 1 日 至 2020年 4 月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	オンデマンド エコノミー事業	シェアリング エコノミー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,831,511	1,352,065	9,183,577	-	9,183,577
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,402	6,607	18,009	18,009	-
計	7,842,914	1,358,673	9,201,587	18,009	9,183,577
セグメント利益	847,091	97,911	945,002	500,305	444,697

(注) 1. セグメント利益の調整額 500,305千円は、セグメント間取引消去及び全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第 2 四半期連結累計期間(自 2020年11月 1 日 至 2021年 4 月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	オンデマンド エコノミー事業	シェアリング エコノミー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,407,768	1,350,295	11,758,064	-	11,758,064
セグメント間の内部売上高 又は振替高	26,036	27,398	53,435	53,435	-
計	10,433,805	1,377,694	11,811,500	53,435	11,758,064
セグメント利益又は損失()	1,497,357	88,897	1,408,459	568,450	840,009

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 568,450千円は、セグメント間取引消去及び全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	13円45銭	20円46銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	269,959	413,774
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	269,959	413,774
普通株式の期中平均株式数(株)	20,065,741	20,219,517
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	13円09銭	19円94銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	559,626	531,189
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 2021年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年6月11日

ギグワークス株式会社
取締役会 御中

UHY東京監査法人
東京都品川区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 若 槻 明 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 谷 田 修 一 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているギグワークス株式会社の2020年11月1日から2021年10月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年2月1日から2021年4月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年11月1日から2021年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ギグワークス株式会社及び連結子会社の2021年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。